



第4代会長 桐上悦子
(平成18年度～19年度)

私は入会して3年目に、先輩方に助けられ、会長をさせていただきました。今振り返れば、学生時代の文化祭のようなわくわくする活動でした。市民の為に役立てることは何か？この街に必要なものは何か？縁の下の力持ちになりたいと、体を動かしていたように思います。

日立さくらまつりではランチマップを配り、女性センター祭りでは、「私たちにできること＝市民の手でまちづくり」と題して、市内の各種ボランティア団体を調べ展示しました。今のように、市に向けた提言ができるような団体に成長したことは大変喜ばしいことです。

忘れられない思い出となったのは、国立女性教育会館で行われた「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」において「生き生きわが街のタウンマップ作り」というワークショップを担当した時のことです。前日のディスカッションで、全国女性団体のトップの方々の素晴らしい活動力・行動力の生の声を聴き、大きな衝撃と感銘を受けました。そのことは今の私の、活動の原点となっています。現在の女性フォーラムは素晴らしい団体となりました。今後も一員として、力を尽くしていく所存でございます。



第5代会長 臼井多賀子
(平成20年度～21年度)

「日立女性フォーラム」のみなさま、創立20周年おめでとうございます。

思い起こせば、日立市女性大学の第一期の受講終了時に、せっかく学んだことを活かさない手はないと、有志で、自分たちの住むまちを女性の視点で考えてみよう活動を開始させたように思います。今は無き清和館での雛飾り、多賀商店会との懇談会、タウンマップ作り、ヌエック(国立女性教育会館)でのワークショップ、など当時の事業が懐かしく思い出されます。

その後続く多くの前向きな会員の皆様に恵まれ、立派な会に成長されましたこと、一会員として嬉しいことと陰ながらエールを送っておりました。

「継続は力なり」20年にわたり、自分の地域をいかに生活しやすい社会にしていくか、情熱を持って取り組む仲間がいることは力強い限りです。人口減少、少子高齢化の進行に加え、新たな感染症の発生、拡大など予測困難な時代です。コロナ渦による新生活様式への移行を考えあわせ、これまでの経験を力に、益々大きく羽ばたいていってください。日立の輝く女性たちに期待しています。